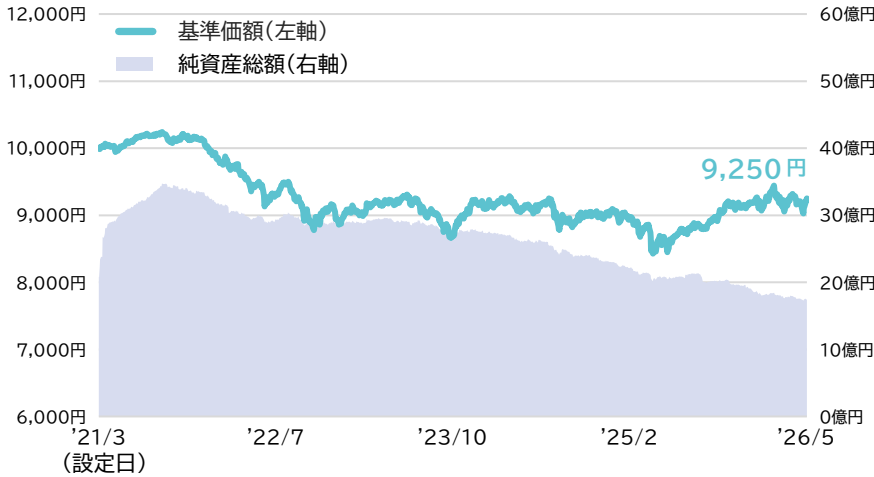


■ 基準価額等の推移



■ 運用成績

	ひふみらいと
1カ月	0.23%
3カ月	-1.61%
6カ月	0.65%
1年	7.38%
3年	0.58%
5年	-7.79%
10年	-
設定来	-7.50%

■ ひふみらいとの運用状況

基準価額	9,250円
純資産総額	17.43億円
受益権総口数	1,884,511,916口

■ ひふみらいと投資信託財産の構成

ひふみグローバル債券マザーファンド	89.78%
ひふみ投信マザーファンド	4.82%
ひふみワールドファンド*	5.10%
現金等	0.30%
合計	100.00%

■ 分配の推移

(1万円当たり、税引前)

第5期	2026年4月	0円
第4期	2025年4月	0円
第3期	2024年4月	0円
第2期	2023年4月	0円
第1期	2022年4月	0円
設定来合計		0円

※基準価額は1万円あたりです。また信託報酬控除後の値です。
 ※当レポートにおいて特段の注記がない場合は、基準日時点における組入比率や運用実績を表しています。また運用成績など表記の値については、小数点第三位を四捨五入して表示しています。そのため組入比率などでは合計が100%にならない場合があります。
 ※「運用成績」の「設定来」は、設定時の価額(10,000円)を起点として算出しております。
 ※「純資産総額」は100万円未満を切捨てで表示しています。
 ※「受益権総口数」とは、お客様に保有していただいている口数合計です。
 ※「ひふみワールドファンド」は正式名称を『ひふみワールドファンドFOFs用(適格機関投資家専用)』といい、「ひふみワールドマザーファンド」を高位に組み入れています。
 ※「現金等」には未収・未払項目などが含まれるため、マイナスとなる場合があります。
 ※「基準価額の変動要因」は、月間の変動額を主な要因に分解した概算値であり、実際の数値とは異なる場合があります。また、四捨五入等の関係で、内訳の各数値の合計は基準価額変動額(月次)と合わない場合があります。「信託報酬・その他」のその他には、設定、解約の影響などがあります。
 ※「ひふみらいと」は複数の投資信託証券(投資対象ファンド)への投資を通じて実質的に債券や株式等へ投資し、投資対象ファンドの基本的組入比率:「ひふみグローバル債券マザーファンド」90%、「ひふみ投信マザーファンド」5%、「ひふみワールドファンドFOFs用(適格機関投資家専用)」5%を維持することを目指して運用を行ないます。(市況動向や運用の状況によっては組入比率が変動する場合があります)各投資対象ファンド等の状況については後述の「ご参考:マザーファンド基準価額の推移と運用成績」をご覧ください。

■ 基準価額の変動要因

基準価額変動額(月次)	+21円
〔組み入れファンド別変動要因内訳〕	
ひふみグローバル債券マザーファンド	-31円
ひふみ投信マザーファンド	+21円
ひふみワールドファンド*	+36円
信託報酬・その他	-4円
〔実質的な資産等項目別の変動要因内訳〕	
債券	-7円
株式・投資証券	+60円
為替	-31円
信託報酬・その他	-1円

ひふみグローバル債券マザーファンド 運用状況

■ ひふみグローバル債券マザーファンドの状況

純資産総額	109.36億円
組み入れ銘柄数	26銘柄

■ 種別比率

国債	70.65%
社債	9.72%
住宅ローン担保証券	8.79%
地方債	5.20%
特殊債	3.43%
国際機関債	0.48%
債券先物取引	-16.50%
現金等	18.22%
合計	100.00%

■ 資産別比率

海外債券	64.12%
国内債券	34.15%
債券先物取引	-16.50%
現金等	18.22%
合計	100.00%

■ 格付比率

AAA	3.06%
AA	40.91%
A	48.45%
BBB	5.86%
BB以下	-

■ 組み入れ上位5カ国 比率

1 日本	39.05%
2 アメリカ	26.99%
3 フランス	7.65%
4 スペイン	5.97%
5 オーストラリア	5.20%

■ 組み入れ上位5通貨 比率

1 日本円	34.15%
2 米ドル	31.89%
3 ユーロ	18.61%
4 オーストラリア・ドル	5.20%
5 イギリス・ポンド	3.64%

■ ポートフォリオ特性値

最終利回り	3.89%
デュレーション	6.6

■ 為替ヘッジ比率

0.00%

■ 組み入れ上位10銘柄 比率

銘柄名	種類	国	通貨	償還日	組入比率
1 日本国債(30年)	国債	日本	日本円	2052/12/20	11.38%
2 米国住宅ローン担保証券	住宅ローン担保証券	アメリカ	米ドル	2055/12/20	8.79%
3 米国国債	国債	アメリカ	米ドル	2041/2/15	8.53%
4 三井住友フィナンシャルグループ	社債	日本	米ドル	2027/1/14	7.31%
5 日本国債(40年)	国債	日本	日本円	2063/3/20	7.22%
6 日本国債(20年)	国債	日本	日本円	2042/12/20	6.23%
7 フランス国債	国債	フランス	ユーロ	2034/11/25	6.08%
8 米国国債	国債	アメリカ	米ドル	2041/8/15	5.33%
9 イタリア国債	国債	イタリア	ユーロ	2033/11/1	4.51%
10 イギリス国債	国債	イギリス	イギリス・ポンド	2043/10/22	3.64%

※「純資産総額」は100万円未満を切捨てて表示しています。

※「ポートフォリオ特性値」は、ファンドの組入債券等(現金等を含む)の各特性値(最終利回り、デュレーション)を、その組入比率で加重平均したものです。なお、債券先物を含めて計算しています。(Bloombergの情報を基にレオス・キャピタルワークス株式会社作成)

最終利回りは、ファンドが投資している債券等の特性を示すために各債券の利回りから算出したものであり、ファンドの運用成果を示唆、保証するものではありません。

デュレーションは、金利の変動による債券価格の感応度を表しています。値が大きいほど金利変動に対する債券価格の変動が大きくなります。

※各比率は、ひふみグローバル債券マザーファンドの純資産総額に対する比率を表示しております。

※「種別比率」「資産別比率」の現金等は、純資産総額から有価証券時価総額を差し引いたコールローン、その他の資産です。なお、ヘッジ目的で先物取引を利用する場合があります。

※格付は、ムーディーズおよびS&Pの格付のうち高いものを採用し、S&Pの格付形式で表示しています。

※「組み入れ上位5カ国比率」は原則として発行国で区分しております。なお、国には地域が含まれます。また、国際機関等特定の国に分類しない場合があります。

※「格付比率」「組み入れ上位5通貨比率」「組み入れ上位5カ国比率」「組み入れ上位10銘柄比率」は、現物資産について表示しております。

※「為替ヘッジ比率」は、外貨建資産の時価総額に対する為替予約評価額の比率です。売買等の計上タイミングや市況動向により比率が100%を超える場合があります。

ひふみ投信マザーファンド 運用状況

■ ひふみ投信マザーファンドの状況

純資産総額	11,415.03億円
組み入れ銘柄数	64銘柄

■ 資産配分比率

国内株式	99.07%
海外株式	-
現金等	0.93%
合計	100.00%

■ 市場別比率

プライム市場	98.26%
スタンダード市場	0.81%
グロース市場	-
その他海外株	-
現金等	0.93%
合計	100.00%

■ 組み入れ上位10業種 比率

1 電気機器	21.41%
2 卸売業	12.63%
3 機械	9.73%
4 銀行業	9.26%
5 情報・通信業	7.29%
6 輸送用機器	5.60%
7 非鉄金属	5.13%
8 保険業	4.61%
9 建設業	4.47%
10 不動産業	3.52%

■ 組み入れ上位10銘柄 比率

	銘柄名	銘柄コード	規模	上場市場	業種	組入比率
1	伊藤忠商事	8001	大型	プライム市場	卸売業	5.28%
2	住友電気工業	5802	大型	プライム市場	非鉄金属	5.13%
3	ルネサスエレクトロニクス	6723	大型	プライム市場	電気機器	4.11%
4	川崎重工業	7012	大型	プライム市場	輸送用機器	4.11%
5	丸紅	8002	大型	プライム市場	卸売業	4.06%
6	東京エレクトロン	8035	大型	プライム市場	電気機器	3.92%
7	みずほフィナンシャルグループ	8411	大型	プライム市場	銀行業	3.80%
8	三菱地所	8802	大型	プライム市場	不動産業	3.52%
9	三井物産	8031	大型	プライム市場	卸売業	3.28%
10	村田製作所	6981	大型	プライム市場	電気機器	3.28%

※「純資産総額」は100万円未満を切捨てて表示しています。

※各比率は、ひふみ投信マザーファンドの純資産総額に対する比率を表示しております。

※「資産配分比率」「市場別比率」の現金等は、純資産総額から有価証券時価総額を差し引いたコールローン、その他の資産です。

※「資産配分比率」の株式には新株予約権を含む場合があります。

※「組み入れ上位10業種比率」は国内株式における上位業種を表示しています。

※「組み入れ上位10業種比率」「組み入れ上位10銘柄比率」の業種は、東証33業種分類を用いて表示しています。なお、海外株式については「その他海外株」として表示しています。

※「組み入れ上位10銘柄比率」の規模は、基準日時点の時価総額と以下の区分に基づき作成しています。

大型(3,000億円以上)

中小型(300億円以上、3,000億円未満)

超小型(300億円未満)

ひふみワールドファンド* 運用状況

■ 純資産総額

138.75億円

*「ひふみワールドファンド」は正式名称を『ひふみワールドファンドFOFs用(適格機関投資家専用)』といい、「ひふみワールドマザーファンド」を高位に組み入れています。

■ 投資信託財産の構成

ひふみワールドマザーファンド	100.31%
現金等	-0.31%
合計	100.00%

ひふみワールドマザーファンド 運用状況

■ ひふみワールドマザーファンドの状況

純資産総額	3,632.90億円
組み入れ銘柄数	111銘柄

■ 資産配分比率

海外株式	96.45%
海外投資証券	0.70%
現金等	2.85%
合計	100.00%

■ 組み入れ上位10カ国 比率

1	アメリカ	66.46%
2	イギリス	6.65%
3	台湾	4.99%
4	イタリア	3.65%
5	オランダ	3.18%
6	ドイツ	2.13%
7	フィンランド	1.36%
8	フランス	1.36%
9	アルゼンチン	1.14%
10	ウルグアイ	0.82%

■ 組み入れ上位10業種 比率

1	半導体・半導体製造装置	19.89%
2	資本財	13.64%
3	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	7.64%
4	メディア・娯楽	7.43%
5	金融サービス	6.26%
6	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	5.85%
7	ソフトウェア・サービス	5.27%
8	エネルギー	5.07%
9	一般消費財・サービス流通・小売り	4.95%
10	銀行	4.22%

■ 組み入れ上位10通貨 比率

1	米ドル	76.84%
2	ユーロ	8.40%
3	台湾ドル	4.99%
4	イギリス・ポンド	3.87%
5	ポーランド・ズロチ	0.77%
6	デンマーク・クローネ	0.54%
7	ノルウェー・クローネ	0.52%
8	オーストラリア・ドル	0.52%
9	スイス・フラン	0.50%
10	香港ドル	0.20%

■ 組み入れ上位10銘柄 比率

	銘柄名	国	通貨	業種	組入比率
1	FERRARI NV	イタリア	米ドル	自動車・自動車部品	2.74%
2	TAIWAN SEMICONDUCTOR MANUFACTURING CO LTD	台湾	台湾ドル	半導体・半導体製造装置	2.56%
3	NVIDIA CORPORATION	アメリカ	米ドル	半導体・半導体製造装置	2.54%
4	AMAZON.COM, INC	アメリカ	米ドル	一般消費財・サービス流通・小売り	2.40%
5	META PLATFORMS, INC	アメリカ	米ドル	メディア・娯楽	2.23%
6	INTEL CORPORATION	アメリカ	米ドル	半導体・半導体製造装置	2.12%
7	BJ'S WHOLESALE CLUB HOLDINGS, INC	アメリカ	米ドル	生活必需品流通・小売り	2.08%
8	ADVANCED MICRO DEVICES, INC	アメリカ	米ドル	半導体・半導体製造装置	2.05%
9	MICROSOFT CORPORATION	アメリカ	米ドル	ソフトウェア・サービス	1.87%
10	BANK OF AMERICA CORPORATION	アメリカ	米ドル	銀行	1.78%

※「純資産総額」は100万円未満を切捨てて表示しています。

※各比率は、純資産総額に対する比率を表示しています。

※現金等は、純資産総額から有価証券時価総額を差し引いたコールローン、その他の資産です。未収・未払項目などが含まれるため、マイナスとなる場合があります。

※「資産配分比率」の株式には、新株予約権を含む場合があります。海外投資証券はREIT(不動産投資信託)等です。

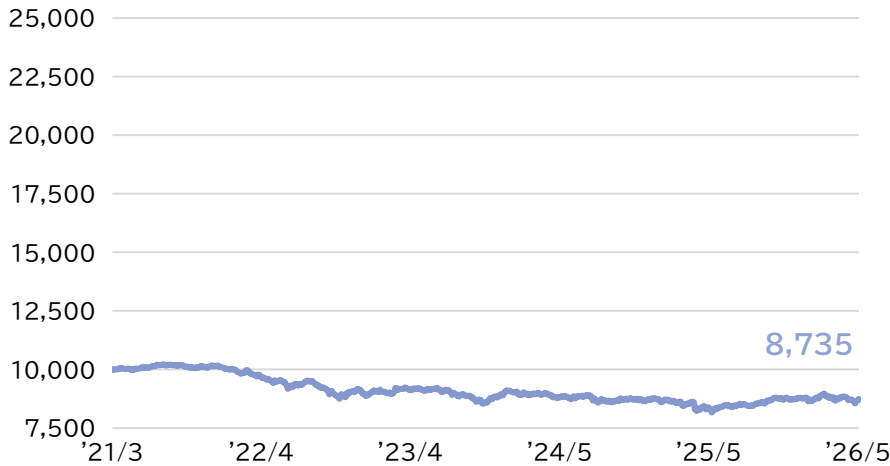
※「組み入れ上位10カ国比率」「組み入れ上位10銘柄比率」の国は、原則として発行国で区分しております。なお、国には地域が含まれます。

※「組み入れ上位10業種比率」「組み入れ上位10銘柄比率」の業種は、株式における上位業種を表示し、原則としてGICS(世界産業分類基準)の産業グループ分類に準じて表示しております。

ご参考:マザーファンド基準価額の推移と運用成績

期間:2021年3月30日~2026年5月29日

■ ひふみグローバル債券マザーファンド 基準価額の推移



■ 運用成績

	ひふみグローバル債券マザーファンド
1カ月	-0.38%
3カ月	-2.26%
6カ月	-0.75%
1年	4.90%
3年	-4.42%
5年	-12.97%
10年	-
ひふみらいと設定来	-12.65%

■ ひふみ投信マザーファンド 基準価額の推移



■ 運用成績

	ひふみ投信マザーファンド
1カ月	4.69%
3カ月	-1.99%
6カ月	17.16%
1年	39.69%
3年	74.28%
5年	73.58%
10年	-
ひふみらいと設定来	67.27%

■ ひふみワールドマザーファンド 基準価額の推移



■ 運用成績

	ひふみワールドマザーファンド
1カ月	7.94%
3カ月	13.65%
6カ月	16.50%
1年	38.59%
3年	89.60%
5年	114.06%
10年	-
ひふみらいと設定来	127.36%

※「ひふみらいと」が直接または間接的に投資している各投資信託証券の基準価額の推移と運用成績を、「ひふみらいと」の当初設定日の前営業日(2021年3月29日)を10,000として指数化して作成しております。

※運用成績は小数点第三位を四捨五入して表示しています。「ひふみらいと設定来」は、「ひふみらいと」の設定日の前営業日(2021年3月29日)(「ひふみグローバル債券マザーファンド」は当初設定時)を起点として算出しております。

※「ひふみらいと」の投資対象ファンドの一つである「ひふみワールドファンドFOFs用(適格機関投資家専用)」は、「ひふみワールドマザーファンド」を高位に組み入れています。ここでは、「ひふみワールドマザーファンド」の基準価額の推移と運用成績を記載しております。

運用責任者よりお客様へ：ひふみらいと

各投資対象ファンドについて、先月の投資環境や投資行動、今後に向けて議論していたことなどをお伝えします。

【ひふみグローバル債券マザーファンド】

米国の長期金利は小幅に上昇しました。米国とイランの戦闘終結に向けた交渉は継続しているものの、膠着状態が続きました。原油高が長期化し、インフレ加速や米国の利上げを招く可能性も意識され、債券に売り圧力がかかりました。日本の長期金利も上昇しました。米国同様、原油高によるインフレ圧力の高まりが意識されました。また、日本銀行が公表した4月会合の「主な意見」では、「仮に中東情勢の帰趨が不透明な状況が続いたとしても、次回以降の決定会合での利上げの判断は十分にあり得る」といった声があるなど、利上げに前向きなタカ派(金融引締派)的な内容と受け止められました。さらに、政府が2026年度の補正予算案の編成を検討しているとの報道が出たことも、財政悪化への警戒を生じさせ、債券売りに繋がりました。

【ひふみ投信マザーファンド】

5月の日本株式市場は上昇しました。米国のハイテク株高を受け、日本でもAIの恩恵を受ける半導体や電子部品などの株価上昇が目立ちました。前年比で円安水準にあることも相まって、外需株が強含みました。当ファンドでは引き続き、総合商社、AIの恩恵を受けるハードウェア企業、金利上昇が追い風となる金融株などを上位に保有しています。

【ひふみワールドファンドFOFs用(適格機関投資家専用)】

5月は米国株式市場も上昇しました。ハイパースケーラー(大規模クラウド事業者)からのAIインフラ需要が引き続き強く、好材料も多く出て、ハイテク関連銘柄が相場を牽引しました。当ファンドでは、上昇の続いている半導体関連に関して、割高感のある銘柄から、メモリやアナログ系も含めた割安な銘柄に入れ替えを行ないました。また、業績が市場予想に追いつかなかったプラットフォーム銘柄の売却などを行ないました。

引き続き、株式・債券チーム一丸となって、全力で運用してまいります。

(6月1日)



ひふみらいと
ファンドマネージャー
橋本 裕一

※TOPIXは、すべてTOPIX(配当込み)を用いています。TOPIX(配当込み)は当ファンドのベンチマーク(運用する際に目標とする基準)ではありませんが、参考として記載しています。TOPIXは、株式会社JPX総研が算出、公表する株価指数です。日本の株式市場を広範に網羅すると共に、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出されます。

※TOPIX等の指数値およびTOPIX等に係る標章または商標は、株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」といいます。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIX等に関するすべての権利・ノウハウおよびTOPIX等に係る標章または商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、TOPIX等の指数値の算出または公表の誤謬、遅延または中断に対し、責任を負いません。当ファンドは、JPXにより提供、保証または販売されるものではなく、当ファンドの設定、販売および販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJPXは責任を負いません。

運用責任者よりお客様へ：ひふみグローバル債券マザーファンド

5月は月中盤にかけて中東情勢をめぐる不透明感が高まり原油価格が上昇し、インフレ圧力が強く意識されました。日本ではゴールデンウィーク後の過密な入札日程の影響で、10年債および30年債入札後に投げ売りが見られました。その結果、10年国債金利は一時2.8%に到達するなど、急ピッチな金利上昇が見られました。また、予想されていたものの政府による補正予算案の検討や赤字国債の発行が伝わったことも、センチメント(市場心理)の悪化につながった面もありました。日本銀行は来年4月からQT(量的引き締め)停止、政府は10月から国債発行年限の短期化を検討しているものと思われませんが、両者ともに実施までに数カ月かかることから、トレンドが転換し金利低下に向かうことは、すぐには難しそうです。一方、6月の日銀金融政策決定会合において利上げが決定されれば、金融政策への信認が高まることで、長期金利には低下圧力がかかると予想されています。我々は当局のさまざまな対応により、長期金利の過度な上昇は避けられると見ています。

米国金利も中東発のインフレ懸念により上昇し、近い将来の利上げ見通しを織り込む形となって、イールドカーブ(利回り曲線)は素直に(日本とは異なり)フラットニング(平坦化)しました。欧州では年内の利上げ織込みは低下し、長期金利も小幅に低下しました。米ドル、ユーロ建て債券は十分な利回りがキープされており、投資にはよいタイミングであると考えています。

為替に関しては、円は対ドル、対ユーロで共に小幅に円高になりました。4月末引け後から大規模な為替介入があったものの、4月末比でのインパクトは限定的で、円安圧力の強さを見せつけられた形になりました。今後も内外金利差を上回るほどの円高は起きにくいと見ており、当面の間、為替リスクを甘受しつつ、外国債券の高い利回りを享受するのが望ましいと考えています。

どうぞよろしくお願いいたします。

(5月29日)



ひふみグローバル債券
マザーファンド
ファンドマネージャー
福室 光生

債券ってなに？～債券の基礎知識～【YouTube】

ひふみらいとがひふみグローバル債券マザーファンドを通じて投資している「債券」について、いまさら聞けない基礎知識を約10分で解説する動画をYouTubeの公式チャンネルにて好評配信中です。

専門用語をできるだけ使わずに、当社社員が分かりやすくお伝えしております。

ぜひご視聴いただき、債券運用への理解の一助としていただければ幸いです。



レオス・キャピタルワークス
【投資信託「ひふみ」公式】YouTubeチャンネル
登録者数2万人突破！
チャンネル登録をお願いします！

運用責任者よりお客様へ：ひふみ投信マザーファンド

2026年5月の日本株式市場は、AI関連株への物色により日経平均株価が前月末比+11.88%、TOPIX(配当込み)も+6.24%と、ともに大幅上昇しました。ひふみ投信マザーファンドのパフォーマンスは、+4.69%となり、TOPIXに劣後しました。当ファンドではAI関連企業(半導体製造装置メーカー含む)に投資しながら、より広範に業種や銘柄へ分散投資しています。

当ファンドでは、これまで成長可能性の高いグローバル企業や資本政策の大幅な改善による自助努力で企業価値を向上できる企業、グローバルで付加価値が十分発揮できる日本発のIP・コンテンツ企業、構造的成長が可能な企業への投資を積極的に行なってきました。今後も日本の成長企業にしっかりと投資し、日本を根っこから元気にしていきたいと思えます。

当ファンドではAI関連企業への投資も積極的に行なっている一方で、本格的なFA(Factory Automation)回復に向けたFA関連企業や、構造的成長が見込める防衛関連企業、利益成長と成長投資が継続できるコングロマリット企業の保有比率を高めています。また、ますます需給逼迫するオフィス市況を背景に好業績が継続するデベロッパーや、景気のダウンサイクルにも強い生命・損害保険、金利のある世界に向けメガバンクに対しても投資を行なっています。

足元数カ月は、ホルムズ海峡封鎖の長期化懸念から多くの業種が売られてきました。今期業績の見通しも明るく、将来の成長期待が高い企業も積極的に売られ、AI・FA関連企業が上昇する相場が継続しました。防衛関連や総合商社のようなセクターは昨年度までの好調な業績と株価から利食いされ、AI・FA関連企業へローテーションされている面があると思えます。私たちもAI関連企業へは積極的に投資しており、セクターとして強気に見ています。一方で日本企業にはAI以外にも成長していける分野が数多く存在すると考えています。総合商社を代表格とするコングロマリット企業や構造的な成長が見込める防衛関連企業、好調なオフィス市況とデータセンター銘柄としても位置付けられるデベロッパー、グローバルでも上位に位置する生命・損害保険企業など、挙げればきりがありません。今後もAI関連企業への投資も継続しながら、上記で挙げた成長分野への投資もしっかりと行ないバランスの取れたポートフォリオを構築していきます。

今後も運用チームでは株式(国内・海外)・債券・経済調査チームと積極的なコミュニケーションを通じて長期的に皆様の資産を増やすことのできるポートフォリオを作っていきます。明るい未来を信じ、今後の日本を牽引する成長企業の発掘を運用チーム一丸となって取り組んでいきます。

(6月3日)

※運用責任者は6月15日をもって内藤誠に変更予定です。



ひふみ投信マザーファンド
ファンドマネージャー
藤野 英人

※個別銘柄を推奨するものではありません。当資料のコメント等は、発行時点での当社の見解を示すものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きや結果を保証するものではありません。ならびに、当社が運用する投資信託への組み入れ等をお約束するものでもありません。

※日経平均株価に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は株式会社日本経済新聞社に帰属します。

※各指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。

運用責任者よりお客様へ：ひふみワールドマザーファンド

2026年5月の米国株式市場は前月に続いて上昇し、過去最高値を更新しました。旺盛なAI需要を背景に大手テクノロジー企業各社が設備投資計画を引き上げたことや、テクノロジー関連企業の良い決算が好感され、半導体を中心にテクノロジー株が上昇を牽引しました。中東情勢を巡っては月後半までは不安定な状況が続いていたものの、月末にかけては米国・イラン間で60日間の停戦延長が暫定合意に至っており、中東情勢の緊張緩和を受けて月末終値ベースでWTI原油先物は1バレル90ドルを下回ったことも投資家心理の改善に繋がりました。

2026年5月の投資行動については、4月ほど大きなポートフォリオの変更は行いませんでした。前月に引き続き、ARMやアドバンスト・マイクロ・デバイセズなど急上昇した半導体株の利益確定売りを粛々と行なったほか、同じ半導体株で相対的に割安感がある一方でデータセンターや電力需要から恩恵を受けると考えられるクアルコムやインフィニオンテクノロジーズなどを、新規に組み入れました。また、半導体全体としてのウェイトを縮小し、新経営陣のもとリストラの進展による経営効率改善が期待されるノボ・ノルディスクや、英国での競争環境の改善が期待される通信企業のボーダフォンなどのウェイトを積み増しました。

上記の通り、半導体銘柄主導で、株式市場は力強い上昇を続けており、史上最高値を更新し続けています。このような急上昇を見ると、条件反射のように「バブルだ！」という人が出てきます。株式市場には2種類のバブルがあります。PER(株価収益率)などのバリュエーション面のバブルと、業績のバブルです。前者は例えば長期平均で15倍程度のPERが例えば40倍などの水準にまで上昇することを言います。直近のS&P500指数の予想ベースのPERは21倍であり、去年のピークの23倍弱よりもまだ低い水準にあります。つまり、今の株価の上昇は業績を伴った上昇であり、バリュエーション面のバブルとは言えないでしょう。次は業績面を検討します。今の話題はもちろんメモリ価格の急上昇です。メモリメーカーの粗利率は過去60%台だったものが80%程度にまで急上昇しています。これはバブルでしょうか。持続可能でしょうか。確かに粗利率80%というのは取りすぎ感があります。ただ、メモリメーカーは買い手と複数年の長期契約を締結しており、来年すぐに腰折れることはないように稼げるうちに稼ごうと手配している上に、メモリは過去悲惨な相場を経験していることから各社、旺盛な需要に直面してもなお増産に向けた設備投資には極めて慎重です。よって、メモリ株を発端にした相場の急落の蓋然性は低く、過度に高所恐怖症になる必要はないのではないのでしょうか。しかし、ポートフォリオ構築は慎重に、上がった銘柄は適時利益確定売りしつつ、適切なウェイトの維持に努めてまいります。

(6月2日)



※各指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。

世界株、AI&半導体人気、業績相場

日米政権「夏の陣」、物価対策・成長戦略推進



世界経済は、2つの危機(イラン戦争と石油危機)下にもかかわらず、景気が底堅く推移しています。主因としては失業率が低位で雇用が堅調、AI革命の進展(AI&半導体ブーム)に伴う企業行動の積極化(設備投資の拡大)、株高に伴う資産効果などが挙げられます。一方、主要国の物価は原油高を主因にCPI総合が上ブレしていますが、基調を示すコアCPIや賃金が総じて安定的です。主要国中央銀行は単純にインフレ⇒利上げ(金融引き締め)とはいかず、難しい政策判断を迫られています。CPI総合が一段高となるのかなど、イラン停戦交渉(ホルムズ再開)が最大の焦点になりそうです。

米国のトランプ政権は11月の中間選挙を控えて低い支持率の下で、物価抑制・安定化が最重要(挽回策)と推察され、そのためにホルムズ海峡の再開と停戦演出が最優先課題とみられます。米国としては、ホルムズ再開を先に合意し、イランの核開発放棄(濃縮ウラン備蓄処分)に時間を要するため、停戦期間の延長で核協議を進め、決着を図る可能性が高そうです。原油市況は4月以降、イラン停戦協議の進展を横目に、乱高下を交えながらも軟化基調です。ホルムズ再開、停戦合意ならば原油市況の軟化、世界的な物価安定化と景気下ブレ回避の観測が強まるでしょう。

日本の高市政権は今夏～秋の政策課題が盛りだくさんです。1月の衆議院選挙で公約に挙げた食料品の消費税減税(2年間実施)とその後の給付付き税額控除制度の導入に向けた具体策がまとまるとみられます。加えて、6月に出される成長戦略ではAI・半導体を中核に17の戦略分野に対する2027年度以降のロードマップ(予算手当)が提示されるでしょう。日本経済の成長底上げや経済正常化に向けての動きが明確化するとみられます。

金融政策面では6月中旬が中銀ウィークになりますが、現状の市場観測はECBが利上げ、日銀が利上げ、FOMCが据置が有力になっています。米国はウォーシュFRB議長の下で初の会合になり、ウォーシュ新議長の会見が注視されそうです。これまでの声明文では利下げバイアスが示されてきましたが、6月会合でそれが維持されるのか削除されるのか注目されます。削除の場合には先々、利上げ局面への転換が警戒されそうです。一方、ホルムズ再開で油価軟化となれば、米国はじめ主要国の金融政策は年後半の過度な利上げが回避され、適温経済と穏健な政策期待が強まりそうです。

企業収益面では、米国企業の業績好調が際立ちます。S&P500種の2026年、27年のEPS(1株あたり利益)予想(FactSetのアナリストコンセンサス)は前年比で各々+24%、+15%の増益見通しで、3月以降、上方修正が鮮明になっています。AI革命(AI&半導体ブーム)や大型減税が効いています。なお、STOXX欧州600指数の予想EPSも2026年、27年と各々2桁増益見通しで上方修正基調を辿っています。業績モメンタムが良好なTOPIXのEPS予想はイラン戦争で一時的に足踏みでしたが、5月以降、上方修正基調に復帰し、各々2桁増益見通しです。

世界株は、3月末以降、イラン停戦を先取りする形で、上昇相場に転じました。広義IT(=情報技術+メディア・娯楽)を中核にAI&半導体関連株が人気化していますが、一方でエネルギーなどの市況関連、公益、生活必需品、ヘルスケアといったディフェンシブや高利回りセクターが人気離散で、2極化物色が顕著です。AI革命(AI&半導体ブーム)を背景に一部の銘柄群に市場人気集中する展開は、1999年前後のIT(TMT:テクノロジー、メディア、通信)相場に類似するところがあります。ただし、相違点として当時はインターネット革命を背景に将来の巨大市場を当て込み、利益不在の赤字企業が爆騰する理想買いが多々みられましたが、今次局面の主演、準主演銘柄群は利益が激増するなど、実体を伴う業績相場の色彩が強い(それだけ安定的)と評価されます。世界株はイラン停戦&ホルムズ再開ならば一段高方向と推察されます。なお、日本株は長期停滞からの脱却(経済の正常化)や、ガバナンス改革(資本効率改善・株主還元強化)など、AIに加えて、それ以外のテーマを豊富に抱えており、主要国の中では相対優位化する余地が大きいと予想します。

(6月2日)

運用メンバーからのメッセージ

毎月、トピックを用意して運用メンバーのコメントを集めています。
多様な考えや価値観をお届けすることを通じて、新しい視点を持っていただくきっかけになれば幸いです。

今月のトピック

投資や経済のプロである皆さんも、先入観や思い込み等に囚われそうになったことはありませんか？また、そこからフラットな視点に戻るために行なうことがあれば教えてください。



Fujino Hideto
藤野 英人
代表取締役社長
シニア・ファンドマネージャー

先入観って学びの蓄積のことだから、先入観って学びの成果なんですよ。より深く学んでよりよい先入観を作り続けることでしょか。



Yuasa Mitsuhiro
湯浅 光裕
代表取締役副社長
最高投資責任者
シニア・ファンドマネージャー

先入観(私たちはよくバイアスという言い方で使っています)があるから世界は面白いんでしょうね。ヒト、モノの見方は十人十色、先入観の源泉(心理的、物理的)を少し時間と距離を置いたりして観察しています。



Ito Tsubasa
伊藤 翼
アナリスト

先入観や思い込みも「自分らしさ・他の人との違い」を構成する要素だと思うので、行き過ぎたものでなければ、必ずしも悪いもの(修正すべきもの)でもないように思います。他の人との考え方の違いを理解して、間違いは素直に認める一方で、どのようにしたら周りの人へ自分なりのプラスの価値を生み出せるかを考えて、努力・工夫を続けていきたいです。



Oshiro Shintaro
大城 真太郎
シニア・アナリスト

株価が語るストーリーに思いを馳せ、自分をそれに寄せる。



Ohara Kenji
大原 健司
シニア・アナリスト

株式市場自体が人間の先入観や物語とかで動きがちなので、短期的には非合理性を認めるスタンスも重要なのかなと思います。



Kubo Tomohiko
久保 智彦
シニア・アナリスト

市場はある意味、先入観や思い込みの集積です。投資においては、何らかの見立てや仮説、つまり「思い込み」をもってポジションを取ります。あくまで「思い込み」であることを意識しつつ、それが「思い違い」でないか、データや取材、マーケットの反応を通じて検証していきます。



Zhou Huan
周 歡
シニア・アナリスト

自分の判断に拘らず、結果(運用者にとっては投資成果)に拘ることです。先入観に囚われると市場に厳しく教育されるので自然に解消します。

運用メンバーからのメッセージ



Sugino Ryosuke
杉野 僚祐
アナリスト

まだ先入観が形成されるほどの経験が積めていないので、一回は自分なりの先入観を形成してから考えたいと思います。そこから先入観を検証して行って、よりよい視座を得ていきたいです。それはそれとして関西人の家には最低一台タコ焼き機があると思ってます。



Senoh Masanao
妹尾 昌直
運用本部長
シニア・アナリスト

色々な考えを持つ人と議論する事で自分の考えがどのあたりにあるかを考えますが、この頃は壁打ち相手としてChatGPTも非常に役立っています。



Takahashi Ryuhei
高橋 龍平
アナリスト

先入観は経験の蓄積だと思うので、何度も経験してより精度の高い先入観を身に付けていければいいのかなと思います。



Takahashi Ryo
高橋 亮
運用副本部長
海外株式戦略部長
シニア・ファンドマネージャー

狂気を伴う思い込みが他人とは違うアイデアの源泉にもなりえるので、無闇に否定したくはありません。



Naito Makoto
内藤 誠
国内株式戦略部長
シニア・ファンドマネージャー

理論やアカデミックな見解に立ち戻ることにはしています。よく人間は非合理的に行動してしまうものなので！



Nagashima Yutaro
永島 優太郎
アナリスト

たびたび思い込みに囚われております。私見ですが、優れた投資アイデアと単なる思い込みは表裏一体。思い込みをしない、というよりも自身の思考プロセスを突き詰めて言語化し己の視点を検証するよう努めています。



Namiki Koji
並木 浩二
小型株式戦略部長
シニア・ファンドマネージャー

思い込んで間違えて正されて、先入観に囚われて間違えて正されて、幾つになってもそんな連続です。よく導いてくださる方々に恵まれて、今日があるのだなあと感謝しています。

※個別銘柄を推奨するものではありません。当資料のコメント等は、発行時点での当社の見解を示すものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きや結果を保証するものではありません。ならびに、当社が運用する投資信託への組み入れ等をお約束するものではありません。

※後述の「当資料のご留意点」を必ずご覧ください。

運用メンバーからのメッセージ



Hashimoto Yuichi
橋本 裕一
マーケットエコノミスト
兼ファンドマネージャー

先入観や思い込みができるようになって初めて、とりあえずその分野の一人前ということでしょうか。投資は常に予言者のような仕事なので、囚われるのが普通かと思います。フラットな視点に戻るために行なうのは、結果が出た後に復習するときですね。



Fukumuro Mitsuo
福室 光生
債券戦略部長
シニア・ファンドマネージャー

ここもとメディアで金利や財政に関して発信しています。経済学の教科書的なロジックとは相容れない内容です。当時の同僚に嘲笑されつつも転向したのは東日本大震災のときですからもう15年経ちます。フラットな視点には戻れそうにないというお話でした。



Hong Minh
洪 民鎬
アナリスト

個人的に興味はありませんが、消費者として市場規模の大きい趣味を体験してみるようにしています。例えばお酒・車・腕時計・ギャンブルとかです。けど未だになぜゼロレックスがカシオより高く売れるか理解できていないところが問題ですね。



Matsumoto Ryoga
松本 凌佳
ファンドマネージャー

自分が正しい少数派であるのか、それとも自分の考えが先入観や思い込みによるものなのかは紙一重です。自分と違う意見を常に探し、異なる意見を反芻し、自分の拠り所が何なのかを確認し続けます。



Mizuse Kiminobu
水瀬 公脩
アナリスト

株価だけでいえば早めの損切(間違っていたことを認める)です。なぜ自分が想定していたストーリーと異なる動きをしたのか原因追及をしたあとはすぐに忘れるようにしています。



Miyake Kazuhiro
三宅 一弘
経済調査室長
シニア・マーケットエコノミスト

難題です。多様な観点からの実証分析がひとつの解決方法と思いますが、それも確かではありません。コツコツ実証分析して備えることでしょうか。



Watanabe Shota
渡邊 庄太
シニア・ファンドマネージャー

売りと買い、真逆の投資家が形づくるのが市場なので、どちらが正しいということではないのかもしれませんが。異なる考えが会うことで生まれるものを大切にしたいと思います。

セミナーなどのお知らせ

公式ウェブサイトの「[セミナー・イベント](#)」ページで詳細のご確認やお申込みができます。
このほかのセミナー日程は開催が決まり次第、随時更新してまいります。

月次運用報告会 ひふみアカデミー

ファンドの運用についてご報告するとともに、今後の経済や株式相場などの見通しについてご説明いたします。投資信託の運用状況について知りたいという方はもちろん、経済環境や株式市場について勉強したい、この先の経済見通しを知りたい方におすすめのセミナーです。

ひふみアカデミー 2026年5月度【ライブ配信】 (ひふみ投信、ひふみワールド、ひふみクロスオーバーpro)*	6月10日(水) 19:00~20:00
ひふみアカデミー 2026年5月度【オンデマンド配信】 (ひふみらいと、ひふみマイクロスコープpro、アナリスト調査最前線)	6月中を予定しております。
ひふみアカデミー 2026年6月度【ライブ配信】 (ひふみ投信、ひふみワールド、ひふみクロスオーバーpro)*	7月10日(金) 19:00~20:00
ひふみアカデミー 2026年6月度【オンデマンド配信】 (ひふみらいと、ひふみマイクロスコープpro、アナリスト調査最前線)	7月中を予定しております。

*リアル会場とYouTube配信のハイブリッド開催です。

○リアル会場 当社セミナールームで開催いたします。観覧には事前申し込みが必要です。


○YouTube配信 [ひふみ公式チャンネル](#)より、ライブ配信いたします。ご質問は当日ご案内するLiveアンケートから承ります。

※開催日程は作成日時点のものです。今後予告なく変更されることがあります。

ひふみのおすすめのコンテンツをご紹介します

皆様いかがお過ごしでしょうか？雨の多い季節がやってきましたね。
移動時間にも気軽に楽しんでいただける、ひふみのおすすめコンテンツをご紹介します！

ひふみラボ

STEP  直販をご利用のお客様へ

つみたての"その先"、
考えたことありますか？

つみたて投資を継続されている皆様、日々コツコツとつみたてを続けるのは、簡単なようで難しいことです。
つみたてを継続できているご自身にぜひ自信をもていただきたいと思えます。今回は、投資の「出口」について一緒に考えてみましょう。

[【記事】つみたての“その先”、考えたことはありますか？](#)
[【記事】つみたての出口を自動化する](#)

YouTubeチャンネル「お金のまなびば！」

前編
シバタナオキ
代表取締役社長
藤野英人
レオス・キャピタルワックス
代表取締役社長

アフターAI
ジェズ・アノニ
著

AIで消える仕事 残る仕事

今回は、昨年発売の書籍『アフターAI 世界の一流には見えている生成AIの未来地図』の著者であるシバタナオキさんをお迎えし、プロ投資家・藤野とともに、投資の視点から今後のAI企業の可能性について深掘りします。

[【前編】AI革命 次に何が起きる？](#)
[【後編】AIに奪えない仕事とは](#)

ひふみ公式LINEアカウント

お客様に向けてLINEでの情報提供をしております。

LINEお友だち登録は[こちら](#)▶

またはLINEにて「ひふみ」で検索



ひふみ

ひふみ公式アプリ「てのひらひふみ」

「てのひらひふみ」では、資産推移をひと目で分かりやすく、いつでもどこでも手もとから確認することができます。

アプリダウンロードは[こちら](#)▶



ひふみらいとの特色

「ひふみらいと」は、投資信託証券への投資を通じて、主として内外の株式および内外の債券に実質的に投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることを目的として運用を行ないます。

- ① 投資信託証券への投資を通じて、世界の株式および債券等に分散投資を行ないます。
- ② 原則として、株式に約10%、債券に約90%投資します。

ひふみ投信の特色（ご参考）

「ひふみ投信」は、マザーファンドを通じて信託財産の長期的な成長を図るため、次の仕組みで運用します。

- ① 国内外の上場株式を主要な投資対象とし、市場価値が割安と考えられる銘柄を選別して長期的に投資します。
- ② 株式の組入比率は変化します。
- ③ 運用はファミリーファンド方式により、マザーファンドを通じて行ないます。

ひふみワールドの特色（ご参考）

「ひふみワールド」は、マザーファンドを通じて信託財産の長期的な成長を図るため、次の仕組みで運用します。

- ① 日本を除く世界各国の株式等を主要な投資対象とし、成長性が高いと判断される銘柄を中心に選別して投資します。
- ② 株式の組入比率は変化します。
- ③ 株式の組入資産については、原則として為替ヘッジを行いません。
- ④ 運用はファミリーファンド方式により、マザーファンドを通じて行ないます。

投資リスク

■ 基準価額の変動要因

- ・ 投資信託証券への投資を通じて株式など値動きのある証券(外国の証券には為替リスクもあります。)に投資いたしますので、基準価額は、大きく変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割り込むことがあります。これらの運用により生じる利益および損失は、すべてお客様(受益者)に帰属します。

- ・ 投資信託は預貯金等とは異なります。

■ 基準価額の変動要因となる主なリスク

価格変動リスク	国内外の株式や公社債を実質的な主要投資対象とする場合、一般に株式の価格は個々の企業の活動や業績、市場・経済の状況等を反映して変動し、また、公社債の価格は発行体の信用力の変動、市場金利の変動等を受けて変動するため、その影響を受け損失を被るリスクがあります。
流動性リスク	有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性のもとでの取引が行なえない、あるいは不利な条件で取引を強いられたり、または取引が不可能となる場合があります。これにより、当該有価証券等を期待する価格で売却あるいは取得できない可能性があり、この場合、不測の損失を被るリスクがあります。
信用リスク	有価証券等の発行者や有価証券の貸付け等における取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想される場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等に、当該有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払いや償還金の支払いが滞る等の債務が不履行となるおそれがあります。投資した企業等にこのような重大な危機が生じた場合には、大きな損失が生じるリスクがあります。また、実質的に投資した債券の発行体にデフォルト(債務不履行)が生じた場合またはそれが予想される場合には、債券価格が下落する可能性があり、損失を被るリスクがあります。
為替変動リスク	外貨建資産を組み入れた場合、当該通貨と円との為替変動の影響を受け、損失が生じることがあります。また、一部の資産において、為替ヘッジを行なう場合に円の金利が為替ヘッジを行なう通貨の金利より低いとき、この金利差に相当するヘッジコストが発生します。
カントリーリスク (エマージング市場に 関わるリスク)	当該国・地域の政治・経済情勢や株式を発行している企業の業績、市場の需給等、さまざまな要因を反映して、有価証券等の価格が大きく変動するリスクがあります。エマージング市場(新興国市場)への投資においては、政治・経済的不確実性、決済システム等市場インフラの未発達、情報開示制度や監督当局による法制度の未整備、為替レートの大きな変動、外国への送金規制等の状況によって有価証券等の価格変動が大きくなる場合があります。また、新興国の公社債は先進国の公社債と比較して価格変動が大きく、債務不履行が生じるリスクがより高いものになる可能性があります。

※投資リスク(基準価額の変動要因)は、上記に限定されるものではありません。

■お申込メモ

	ひふみらいと	ひふみ投信(ご参考)	ひふみワールド(ご参考)
商品分類	追加型投信／内外／資産複合	追加型投信／内外／株式	追加型投信／海外／株式
当初設定日	2021年3月30日	2008年10月1日	2019年10月8日
信託期間	無期限		
決算日	毎年4月15日(休業日の場合翌営業日)	毎年9月30日(休業日の場合翌営業日)	毎年2月15日(休業日の場合翌営業日)
収益の分配	決算時に収益分配方針に基づいて分配を行いません。分配金再投資専用のため、分配金は自動的に再投資されます。		
購入単位	1,000円以上1円単位の金額指定で受け付けます。		
購入価額	ご購入のお申込受付日の翌営業日の基準価額(1万口当たり)		
購入代金	販売会社が定める日までに販売会社にお支払いください。		
換金(解約)単位	1口以上の口数指定または1円単位の金額指定で受け付けます。		
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額(1万口当たり)		
換金代金	換金申込受付日から起算して6営業日目から支払われます。	換金申込受付日から起算して5営業日目から支払われます。	
購入・換金申込受付不可日	ニューヨーク証券取引所、ニューヨークの銀行、香港証券取引所、香港の銀行またはロンドンの銀行のいずれかの休業日と同じ日付の場合には、申込受付は行いません。	—	ニューヨーク証券取引所または香港証券取引所のいずれかの休業日と同じ日付の場合には、申込受付は行いません。
申込締切時間	購入・換金共に、毎営業日の午後3時30分までに受け付けたものを当日のお申込みとします。		
課税関係	課税上は、株式投資信託として取り扱われます。配当控除の適用はありません。公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA(少額投資非課税制度)の適用対象となります。		
	NISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象です。	NISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」および「つみたて投資枠(特定累積投資勘定)」の対象です。	
	詳しくは、販売会社にお問い合わせください。税法が改正された場合等には、変更となる場合があります。		

■お客様にご負担いただく費用

◇直接ご負担いただく費用：ありません。

申込手数料・換金(解約)手数料・信託財産留保額は一切ありません。なお、「スポット購入」に際しての送金手数料はお客様負担となります。

◇間接的にご負担いただく費用：次のとおりです。

	ひふみらいと	ひふみ投信(ご参考)	ひふみワールド(ご参考)
運用管理費用(信託報酬)	ひふみらいと：信託財産の日々の純資産総額に対して 年率0.55%(税込) を乗じて得た額 投資対象とする投資信託証券(ひふみワールドファンドFOFs用(適格機関投資家専用))：純資産総額に対して年率 0.0022%(税込) 実質的な負担※：純資産総額に対して 年率0.5522%(税込)程度	信託財産の日々の純資産総額に対して 年率1.078%(税込) を乗じて得た額	信託財産の日々の純資産総額に対して 年率1.628%(税込) を乗じて得た額
その他費用・手数料	投資対象とする投資信託証券における諸費用および税金等、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用(監査費用)およびそれにかかる消費税等、受託会社の立て替えた立替金の利息など。 監査費用は日々計算されて毎計算期末または信託終了のとき、その他の費用等は都度ファンドから支払われます。これらの費用は、運用状況等により変動するものであり、予めその金額や上限額、計算方法を具体的に記載することはできません。	組入る有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料(それにかかる消費税等)、先物取引・オプション取引等に要する費用、外貨建資産の保管等に要する費用、租税、信託事務の処理に要する諸費用、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用(監査費用)およびそれにかかる消費税等、受託会社の立て替えた立替金の利息など。	

※手数料等の合計金額については保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

■ 当資料のご留意点

- 当資料はレオス・キャピタルワークスが作成した販売用資料です。投資信託のお申込みにあたっては、事前に販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を十分にお読みになり、ご自身でご判断ください。
- 当資料に記載されている当社が運用する投資信託の過去の運用結果等は、将来の結果等をお約束するものではありません。また、当該過去の運用結果等は、当該投資信託に投資をされた各投資家の利回りを表すものではありません。運用実績は投資信託の利益にかかる税金等を考慮していません。
- 当資料は作成日における信頼できる情報に基づき作成しておりますが、内容の正確性・完全性を保証するものではなく、また記載されている内容は予告なく変更される場合があります。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- セミナー等で金融商品の説明等を行うことや、お客様からのご依頼がある場合に金融商品に関連する追加の説明等を行うことがあります。しかしながら、売買の推奨等を目的とした投資勧誘は行ないません。また、金融商品の案内、説明等はあくまで各お客様ご自身のご判断に資するための情報提供目的であり、金融商品の購入等を推奨するものでもありません。

■ ファンドの関係法人

委託会社:レオス・キャピタルワークス株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第1151号
加入協会 一般社団法人資産運用業協会
受託会社:(ひふみらいと)三井住友信託銀行株式会社
(ひふみ投信)三井住友信託銀行株式会社
(ひふみワールド)三菱UFJ信託銀行株式会社
販売会社:レオス・キャピタルワークス株式会社

■ 各ファンドについてのお問い合わせ先



RHEOS CAPITAL WORKS

レオス・キャピタルワークス株式会社
コミュニケーション・センター
電話:03-6266-0123 メール:cc@rheos.jp
受付時間:営業日の9時~17時
ウェブサイト:<https://www.rheos.jp/>